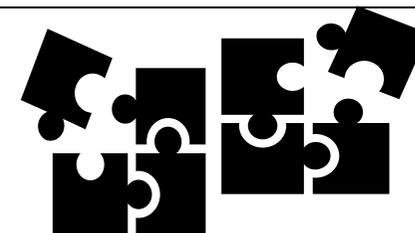


法人理念	人との出会いを大切に		
支援方針	1, どんな時も子どもファースト 2, できる?できない?ではなく、とにかく1度はやってみよう!!		
営業時間	9:00~17:30	送迎実施の有無	なし
<b>支 援 内 容</b>			
本 人 支 援	<b>入園準備がんばるプログラム</b> 1, 保育園や幼稚園の様に通園するプレスクール型 2, 1日の療育の中で「個別療育」と「集団療育」のどちらかに偏ることなく進める 3, 1日の生活の中に、健康・生活・運動・感覚・認知・行動・言語 コミュニケーション・人間関係・社会性など5領域のすべてを支援していきます。		<b>入学準備がんばるプログラム</b> 1, 幼稚園や保育園で集団生活を過ごしているので、個別支援が中心 2, 苦手な部分を把握しお子様自身の日々変わる変化や今後の進路に向けて保護者の方と話し合い、作成した個別支援計画は状況により常に修正を加えていきます。 3, 就学へ向けたお子様にはひらがなの読み方、数の数え方などの基礎勉強にも取り組みます。
	9:30 登園 (保護者お送り) 健康確認・身辺整理 9:45 はじまりの会 ごあいさつ・季節のうた・絵本・音楽体操・ 日付の確認・名前・人数の確認・時間排泄・ 集団遊び 10:00 集団療育(あそびG) 設定保育(日のカリキュラムが変わります) 運動療育・音楽療育・微細運動・絵具遊び・お散歩・公園遊び・四季の行事・絵画制作など個別+小集団で活動します。 10:30 個別指導・自由遊びコミュニケーション学習 ★個別指導(微細運動等) ★自由遊び(コミュニケーション学習) ルールのある遊びや、好きなおもちゃ・好きな空間で遊んでいる中で、物の貸し借りや順番などルールを守ることの大切さを学びます。	14:00~保護者お送り 各自園終了後来所 健康確認・身辺整理・自由遊び 14:15~個別指導開始 ★個別指導(年齢や個人差により変わりますが1クール15分から20分、それぞれが1つの課題にマンツーマン指導で取り組みます。 2クールから3クール計1時間は全員受けていただきます。 8つのパズルで上げている課題をしていき、年齢などによって今必要なことを重ねて指導していきます。 ★自由遊び(好きなおもちゃでお友だちと遊ぶ) ★コミュニケーション学習(ゲームなどを使って) ★運動療育・音楽療育を取り入れている。	15:30 おやつタイム (個数・金額を提示し自分で考え選ぶおやつ終了後各自自由な活動をする。

12:00	昼食準備・昼食 時間排泄★お弁当を持参していただきます。 昼食後はそれぞれが自分の好きな遊びを楽しみます。
13:00	お片付け・身支度・時間排泄
13:45	おわりの会 お名前確認・絵本・お歌・ごあいさつ
14:00	降園(保護者おむかえ)

16:15	降園準備 お片付け・身支度・時間排泄
16:30	おわりの会 お名前の確認・絵本・四季の歌・ごあいさつ
16:45	(保護者おむかえ)

## 8つのパズル「できる」から「できた」をがんばろう！



- 1, 身辺自立(持ち物管理・トイレトレーニング・)
- 2, ソーシャルスキルトレーニング(日常のご挨拶・マナー・遊びを通してルールを学ぶ)
- 3, 体幹・運動(平均台、マット運動、ボール運動、体幹運動)
- 4, 集中力(就学準備に向けて)一定の時間一つのことに集中できる能力を養います。
- 5, 言語・コミュニケーション(言葉の使い方・他者とのやり取り・指示行動)
- 6, 微細運動(指遊び・パズルなど細かい手先の運動)
- 7, 自己肯定感(達成感や満足感、自信をつける、前向きに取り組む力、自己表現力を養っていく)
- 8, 学習(就学準備プログラムでは文字の読み書き、数字の読み書き・数の増減、時間の把握)

自立するのに必要な技能や知識などの習得や、日常生活に必要な基本動作、集団生活に順応していくためのコミュニケーショントレーニング  
 発達がゆっくりなお子様、発達障害のお子様の一人ひとりのペースに合わせて、支援をしていく就学前(1歳頃～)のお子様を対象とした通所  
 施設です。幼稚園や保育所のような大きな集団の中で、先生の指示がわからない。友達とうまく遊べていない。落ち着いて話を聞けない。気  
 持ちの切り換えが難しい。こだわりが強い。等という気になる姿があるお子様をアットホームな雰囲気の中、小集団で、また個別で支援しま  
 す。コミュニケーションや社会性、日常生活のスキル、言葉の理解や記憶に弱さや苦手さがあるお子様は、適切な支援を受ける事で、友達と  
 うまく関われるようになってたり、生活での困り感を軽減することができるように練習します。

長年の幼児教室において培った教育プログラムを元に、  
 すべての子供たちが「個別療育」「集団療育」のどちらかに偏ることなく「指導案」をたて、  
 一人一人の成長のために充実した指導を行います。

5 領域	本人支援内容
健康・生活	健康状態の維持や改善、基本的な生活スキルの習得、生活リズムの形成の支援方法を考えます。睡眠、食事、排泄を身に着ける方法。食を営む力の育成と楽しい食事への配慮(感覚等)支援(咀嚼、嚥下、姿勢保持等)します。遊びの中や日常の学習機会を利用した支援、環境配慮を工夫します。プレスクール型により毎日規則正しい生活環境の中で何度も繰り返し行うことで、習得していきます。
運動・感覚	様々な運動遊具を用い、運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感、様々な体の感覚・感触に触れ、感覚の成長を支援します。体の感覚は、力加減や、体の動きをコントロールするだけでなく、気持ちやテンションのコントロールにも役立ちます。音楽療法士の先生と一緒に、様々な楽器に触れ音楽遊びを楽しむ。
認知・行動	特性に合わせて、どのような方法、環境の設定であれば円滑に学習できるかを模索し、支援します。また、“着席”“大人をよく見る”“少し嫌なことへも頑張ってみる”等課題に向く姿勢、力をつくよう支援します。頑張ると「楽しい」「やってよかった」と感じるように関わり方や内容を工夫します。
言語 コミュニケーション	“要求”“報告”“聴く”“模倣”“観察する”など、自分も周囲の人も大切にコミュニケーションを学びます。言葉だけでなく、ジャスチャーやカードなど、子どもに合った方法を考え支援します。
人間関係・社会性	ST(ソーシャルスキル)と言われる支援です。“順番交代”役割”ルールを守る”指示に沿った行動をする”など、社会に適応する為に必要なスキルを支援します。また、“感情に気付く”“感情に名前を付ける”“対処法を考える”など、気持ちのコントロールを練習します。また、ストレスが強い状態の時には、子どものペースに合わせて関わり、ストレスを発散する方法を考えます。

家族支援	家族からの相談や悩みに対しての助言や寄り添う事により、少しでも気持ちがリフレッシュ出来るように話し合いの場を持つ。お子様の様子を客観的に観察できる時間を提供し(参観日など)、新たな気づきの場として活用できるようにする。困り感や気づきをいつでも話せる環境を確保し、延長支援を活用しレスパイトケアを行う。
移行支援	学校、幼稚園・保育園関係機関との連携 幼稚園・保育園・学校に行くための準備
地域支援・地域連携	関係機関との連携を行う。学校園からの相談や共有があれば療育的視点での提案や助言を行う。
職員の質の向上	一人一人の児童に対する担当者会議の実施。また、支援の中での気づきや変化は職員間で共有する。共有発達特性と支援の手立てについて研修等で学び専門性を高める。
主な行事等	<p><b>はる</b> ひなまつり・こどもの日の集い・参観日・ピクニック</p> <p><b>なつ</b> 水遊び・七夕まつり・夏まつり</p> <p><b>あき</b> お月見会・参観日・秋の遠足・ハロウィン</p> <p><b>ふゆ</b> クリスマス会・お正月あそび・おもちつき・豆まき・*その他、お誕生日会・身体測定・おやつクッキングなど、年に2回避難訓練</p>

